

Space Japan Milestone

スーパーバード7号機の打ち上げ成功



宇宙通信株式会社
代表取締役社長 永井 裕氏

2008年8月15日午前5時44分(日本時間)、当社の新しい通信衛星スーパーバード7号機は、アリアンスペース社のアリアン5ロケットにより打ち上げられ無事成功いたしました。皆様のご支援に心から感謝を申し上げます。スーパーバード7号機は、現在東経144度で運用中のスーパーバードC号機の後継衛星(C2号機)として、本年秋頃よりサービスを開始する予定です。



写真1:スーパーバード7号機の打ち上げの瞬間(写真提供:Arianespace)

スーパーバード7号機を載せたアリアン5ロケットは、南米仏領ギアナのギアナ・スペース・センター(CSG)より打ち上げられました。この射場があるクールーという町は、かつて映画『パピヨン』の舞台になった流刑地を有する人口数百人程度のごく小さな町でしたが、打ち上げ関連の仕事に従事する人々の移住により人口は増え、現在は約1万5千人が暮らす町となりました。とはいえ、周りをジャングルに囲まれた長閑な町で、道端を大きなトカゲがのんびり散歩する姿を見かけることもあります。



写真2: クールーの町並み

今回の打ち上げは、アリアンスペース社の打ち上げとしても珍しく、太陽が出ている時間帯に行われたこと、また天候にも恵まれたことから、ロケットへの点火から補助ブースターの分離までをはっきりと肉眼で見ることができました。私は、射点から16km程度離れた場所にある打ち上げミッション全体の管制センター「JUPITER(ジュピター)」より打ち上げを見守りましたが、射点に舞い上がる白煙の中、音も無くリフトオフしたロケット、遅れて届いたバリバリという空気を引き裂く轟音、青空に吸い込まれるように上昇を続けるロケットの機体と噴射の炎、そして残る白煙の軌跡、その一つ一つに感動いたしました。



写真3： 筆者が撮影した打ち上げ直前のアリアン5 ロケット

2008年9月現在、スーパーバード7号機は今秋のサービスインを目指し、軌道上試験を行っている最中です。

当社は、2008年3月31日からスカパーJSATグループの傘下に入りましたが、来る10月1日には同じグループ傘下のJSAT株式会社及びスカイパーフェクト・コミュニケーションズ株式会社と共に1社に統合され、スカパーJSAT株式会社となります。今回のスーパーバード7号機の打ち上げは、3社の統合を成功に導く為の大切なマイルストーンであり、これを成功裏に実行出来た事により、今後の統合をよりスムーズに進めていく事が出来ると考えています。新会社は、今回の打ち上げ成功により、11の軌道位置にスーパーバード7号機を含めて13機の通信衛星を保有することとなります。来年にはインテルサット社との共同衛星となるIntelsat-15、JCSAT-Rの後継機となるJCSAT-12の打ち上げも予定しており、衛星のフリート体制を更に充実して参ります。



写真4: 管制センター「JUPITER」内で打ち上げ成功のスピーチをする筆者

■ スーパーバード7号機の概要

運用予定軌道位置: 東経 144 度

衛星バス: DS2000(三菱電機株式会社)

衛星の主要諸元:

- ・周波数: Ku バンド
- ・中継器: 27MHz × 20ch、36MHz × 8ch
- ・搭載ビーム: 日本ビーム / 北東アジア・南東アジアビーム / 可動ビーム
- ・カバーエリア: 日本全国(小笠原含む)、及びアジア太平洋のほぼ全域
- ・設計寿命: 15 年

写真4: スーパーバード7号機のイメージ

(写真提供: 三菱電機)

